



施策の概要

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

基本政策(1層) 生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり

政策(2層) 誰もが安心して暮らせる地域のつながり・しくみをつくる

施策(3層) 総合的なケアの推進

直接目標 多様な主体による地域での支え合いのしくみをつくる

主な事務事業

地域包括ケアシステム推進事業	災害救助その他援護事業
介護予防事業	民生委員児童委員活動育成等事業
認知症高齢者対策事業	自殺対策・メンタルヘルス普及啓発事業
在宅医療連携推進事業	権利擁護事業
福祉センター再編整備事業	
地域見守りネットワーク事業	

実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標① 高齢者のうち、介護を必要とする人(要介護・要支援認定者)の割合

算出方法	第2号被保険者を除く、要介護・要支援認定者数(46,026人)／市内高齢者数(269,609人)×100(%) (健康福祉局調べ)			
指標の考え方	セルフケア意識の醸成や、若い頃からの健康づくり、高齢者の生きがい・健康づくり、介護予防の取組等を推進し、介護を必要とする高齢者の増加を抑制することが重要であるため、その指標を設定することで取組の成果を測ることができる。			
指標の目標値	17.07%(H26)	18.4%(H29)	20.5%(H32)	22.86%(H37)
目標値の考え方	取組の実施により、第6期介護保険事業計画の推計値を下回ることを目標とする。			

成果指標② 地域包括ケアシステムの考え方の理解度

算出方法	市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「地域包括ケアシステムの内容を知っており、具体的にどのように行動したらよいか分かっている」と答えた人の割合(市民アンケート)			
指標の考え方	多様な主体による地域での支え合いのしくみをつくるためには、地域において、将来のあるべき姿についての合意形成がなされるとともに、それを実現するための地域包括ケアシステムの必要性や考え方が地域全体で共有されることが必要であり、「理解度」を問うことで、取組の成果を測ることができる。※ここで言う「理解度」とは、地域包括ケアシステムの内容を知っていることに加え、具体的にどのように行動したらよいか分かっていることとしている。			
指標の目標値	10.1%(H27)	16.0%(H29)	32.0%(H33)	42.0%(H37)
目標値の考え方	H24に実施した第3回地域福祉実態調査において、H15に設置された「保健福祉センター」の認知度が、70%となっている。「地域包括ケアシステム」についても、今後の取組により、10年後にこれと同程度の一般化(認知度70%)をめざしつつ、そのうち半数以上(6割)の市民が理解している(何をすべきかまで知っている)状況が、地域包括ケアシステムを持続可能なしくみとしていくために必要と考え、10年後の目標値を42%とする。			

実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標③ 在宅チーム医療を担う人材育成研修の受講者累計数

算出方法	毎年度、開催する当該研修の受講者数を累計(健康福祉局調べ)			
指標の考え方	高齢化が進行する中で、在宅での療養環境の整備に向けては、医療・介護の多職種による連携の推進が必須であり、そのためには、顔の見える関係づくりが重要である。そのため、区ごとに多職種でグループワーク等を行う当該研修の受講により、多職種連携を推進していることから、累計受講者数を指標として設定することで取組の成果を測ることができる。			
指標の目標値	308人(H26)	750人(H29)	1,350人(H32)	1,950人(H37)
目標値の考え方	川崎市在宅療養推進協議会に参画する医師会をはじめとした多職種関係団体を通じて、受講者を募り、区ごとに多職種でグループワーク等を行い、顔の見える関係づくりを進めている。毎年150名程度(各区2テーブルずつ、9団体から1~2名程度の参加者を想定)を目標として、研修を実施することで、多職種連携の着実な推進をめざす。			

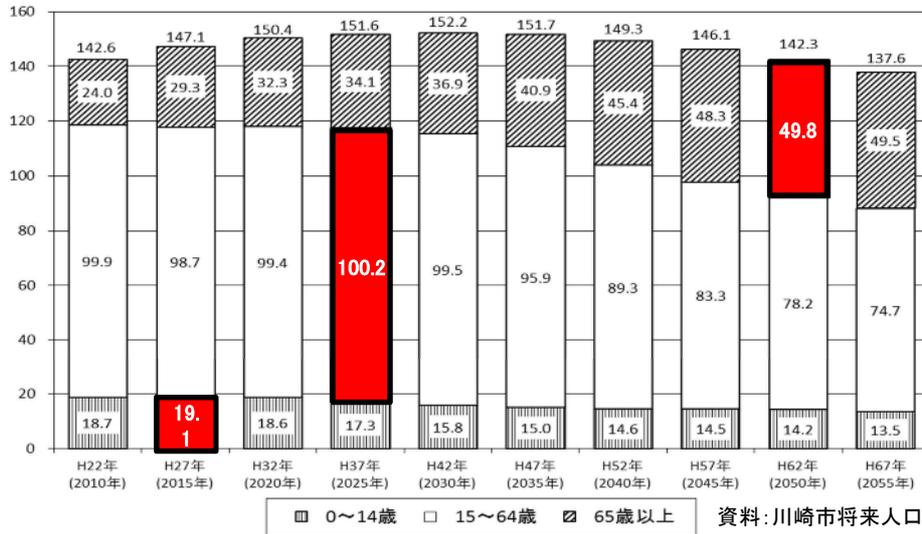
成果指標④ 介護予防の取組として、地域の活動に参加する人の割合

算出方法	高齢者を対象とした調査(無作為抽出3,600人)の設問項目「介護予防の取組で実践していること」について、「地域の活動に参加」を選択した人の割合(高齢者実態調査)			
指標の考え方	地域の中でいきがいや役割を持って活動に参加することが、結果として介護予防につながり、地域の活動に参加する人が増えることで、自助・互助による介護予防等が促進されることから、これを指標として取組の成果を測ることができる。			
指標の目標値	10.6%(H25)	10.6%(H28)	15.0%(H31)	20.0%(H37)
目標値の考え方	H28から新事業「介護予防・日常生活支援総合事業(以下「総合事業」)」を実施するため、次回調査の実施時(H28)には現状を維持し、その後は総合事業を推進する中でセルフケア意識の醸成を図り、地域の活動に参加する市民を着実に増やすことをめざす。			

川崎市における少子高齢化の進展

概要 背景 取組 成果 まとめ

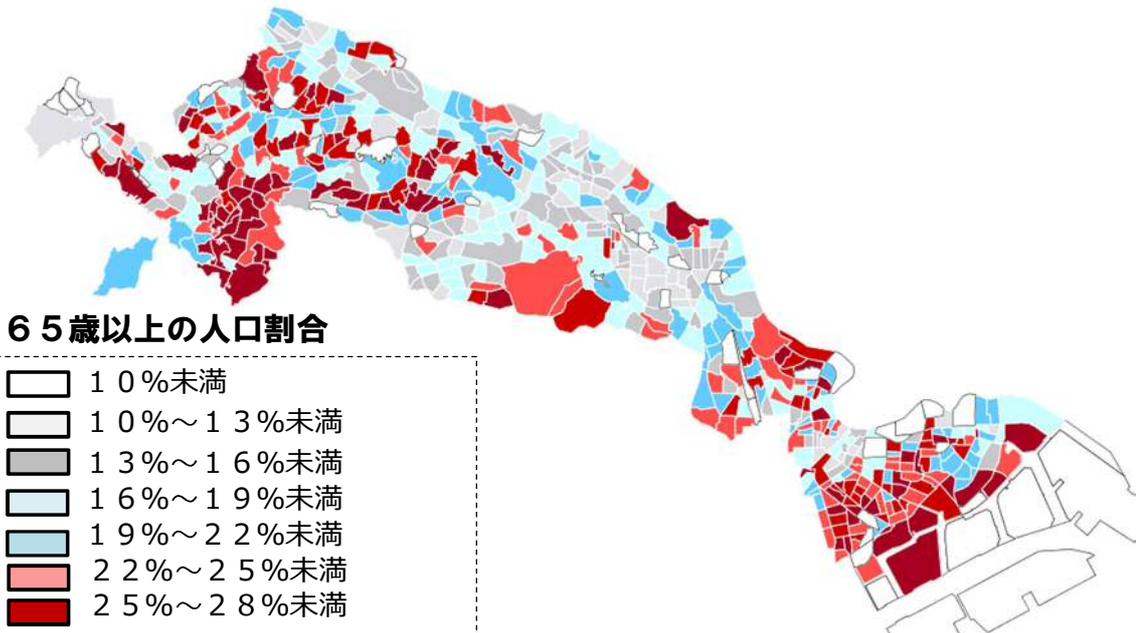
- 本市の将来人口推計では、2030年まで人口が増加するものの、年少人口のピークは2015年、生産年齢人口のピークは2025年と推計されており、ピーク後は急速に減少していくと見込まれています。
- また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの時、ついに川崎市も超高齢社会に突入して、人口のピークとなる2030年を経て、2055年には現役世代約1.5人で1人の高齢者を支える状況となることを見込まれます。



川崎市における地域別の高齢化率の状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 若い世代の多い武蔵小杉のような地域もあれば、高齢化率が40%を超える団地がある地域など、地域ごとに人口や高齢化率が異なり、さらには、地理的な状況や歴史、住民の考え方も異なり、地域の実情に応じた取組の推進が求められています。



川崎市における地域包括ケアシステムの構築

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 今後迎える超高齢社会を見据え、地域の実情にあった川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムを構築していくことが重要であり、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現に向け、「地域包括ケアシステム推進ビジョン」を平成27年3月に策定しました。

「地域包括ケアシステム推進ビジョン」

～ 一生住み続けたい最幸のまち・川崎をめざして～

【基本理念】

川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築による誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現



基本的な5つの視点

1 【意識の醸成と参加・活動の促進】

地域における「ケア」への理解の共有とセルフケア意識の醸成

2 【住まいと住まい方】

安心して暮らせる「住まいと住まい方」の実現

3 【多様な主体の活躍】

多様な主体の活躍による、よりよいケアの実現

4 【一体的なケアの提供】

多職種が連携した一体的なケアの提供による、自立した生活と尊厳の保持の実現

5 【地域マネジメント】

地域全体における目標の共有と地域包括ケアをマネジメントするための仕組みの構築



施策1-4-1 総合的なケアの推進



9

地域包括ケアシステム推進ビジョンと関連計画

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 地域包括ケアシステム推進ビジョンは、関連する個別計画の上位概念として位置付けられており、関連計画において目標・取組方針・施策を具体化するとともに、その実現に必要な資源・体制・手法を明確化します。
- 平成29年度に改定する保健医療福祉分野の関連計画について、「地域包括ケアシステム推進ビジョン」を踏まえた一体的な計画となるよう策定を進めます。

川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン



【推進ビジョンを反映した目標・方針・施策の具体化】 【実現に必要な資源・体制・手法の明確化】

関連計画

かわさき
いきいき
長寿プラン

かわさき
ノーマライ
ゼーション
プラン

川崎市
子ども・子育て
支援
事業計画

かわさき
健康づくり21

川崎市
地域医療計画

かわさき
教育プラン

川崎市
住宅
基本計画

川崎市地域福祉計画

など



施策1-4-1 総合的なケアの推進

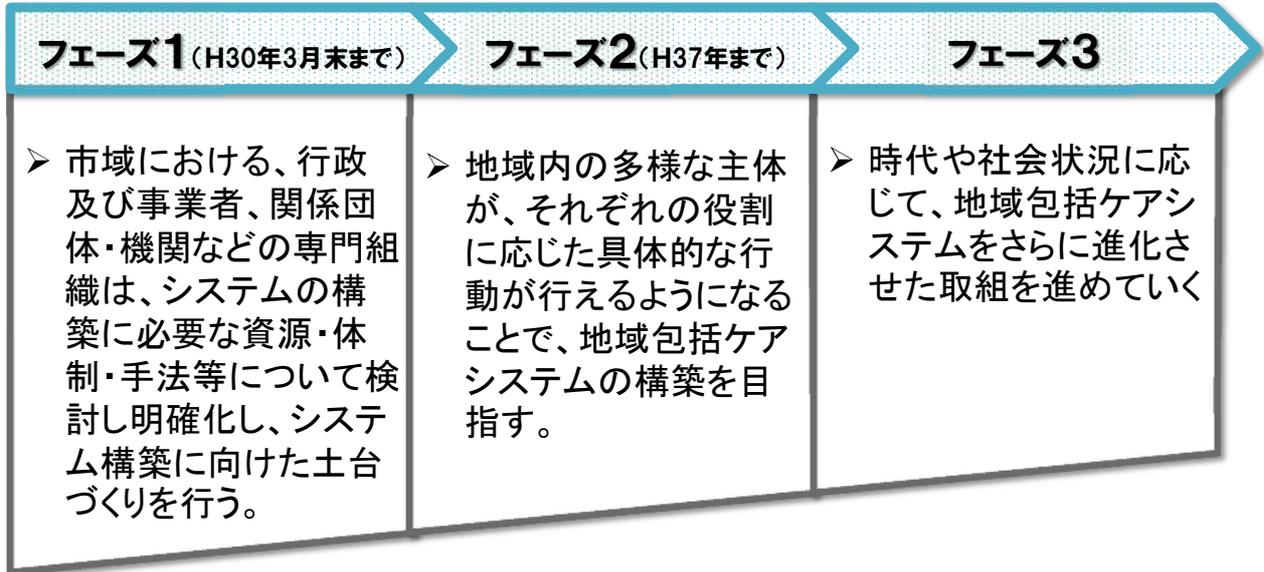


10

「地域包括ケアシステム推進ビジョン」のロードマップ

概要 背景 取組 成果 まとめ

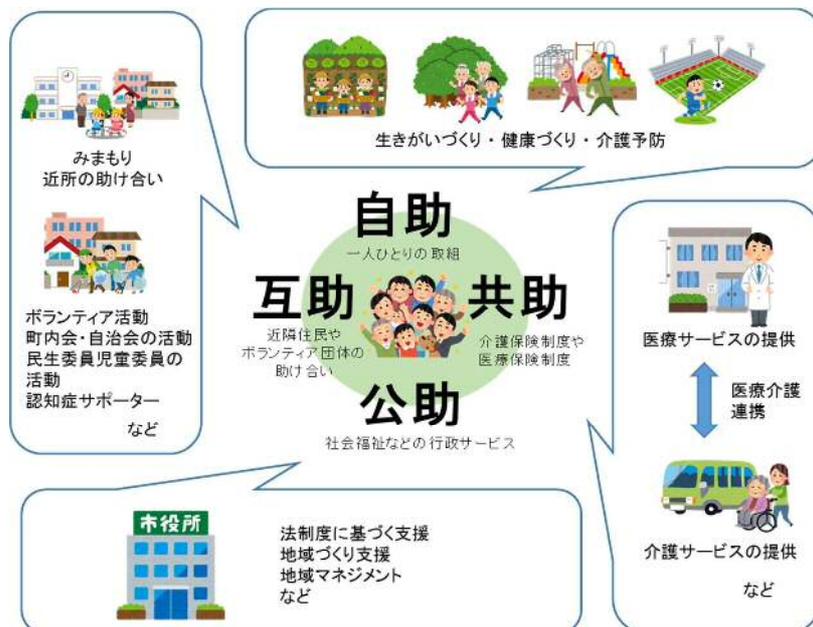
- 「地域包括ケアシステム推進ビジョン」を効果的に推進するため、次のとおり段階を分けて、時代や社会状況に応じて、地域包括ケアシステムをさらに進化させた取組を進めていきます。



「自助・互助・共助・公助」の役割分担に基づく取組の推進

概要 背景 取組 成果 まとめ

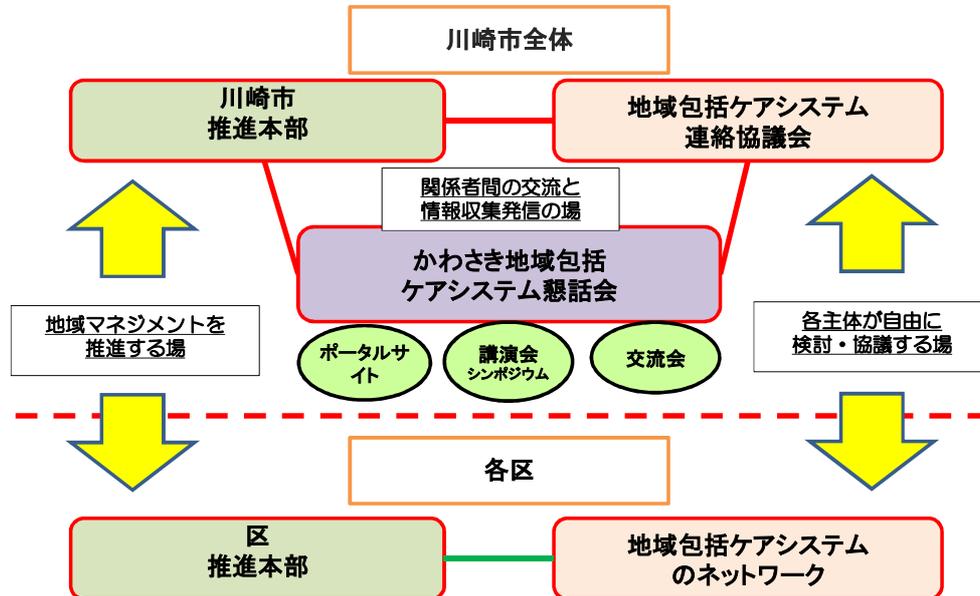
- 地域包括ケアシステムの推進には、「自助・互助・共助・公助」の役割分担に基づく取組が必要であり、住民をはじめ、事業者や町内会・自治会、関係機関、ボランティア団体、行政など、地域全体で取組を推進していくことが重要です。



地域包括ケアシステムの推進体制

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 市長を本部長とした「推進本部」や、医療や福祉の関係者、地域団体などから構成された「連絡協議会」を設け、地域包括ケアシステムの推進に努めています。また、広く、地域に地域包括ケアシステムの考え方を広めていくため、「懇話会」と称して、ポータルサイトの開設や市民向けの講演会などを実施しています。



地域包括ケアシステム連絡協議会・懇話会

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 地域包括ケアシステム連絡協議会は、川崎市における地域包括ケアシステムの推進を図るため、川崎市における多様な主体が自由に検討・協議を行うとともに、顔の見える関係を構築し、主体的な連携の仕組みづくりを進める場として、年3回開催しています。
- 懇話会では、ポータルサイトや市民向け講演会により、市民の理解度向上に向けて取り組んでいるほか、年3回の交流会による多様な主体の顔の見える関係づくりを進めています。

【地域包括ケアシステム連絡協議会】

【構成】

学識者、医師会、病院協会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、市社会福祉協議会、市民生委員児童委員協議会、市町内会連合、地域見守りネットワーク事業者、高齢者関係サービス事業者、障害者関係サービス事業者、認知症ネットワーク、青少年指導員連絡協議会、PTA連絡協議会、商工会議所、行政職員

【平成28年度開催実績】

- ・第1回 平成28年8月24日
- ・第2回 平成28年11月18日
- ・第3回 平成29年3月22日

【かわさき地域包括ケアシステム懇話会】

【理解度向上に向けた取組】

- 地域包括ケアシステムポータルサイト
- 川崎市の地域包括ケアシステムに関する取組やイベント、身近に感じれる地域包括ケアシステム等の情報を掲載。

過去3か月の平均閲覧のべ人数: 2,321人

- 平成28年度市民向け講演会「生活モデルに基づくケアの進め方について」
- ・開催日 平成29年2月18日
- ・参加者 118人

【顔の見える関係づくり】

- 交流会
- ・連絡協議会后、連絡協議会会員の所属する団体の役員も参加する交流会を開催(8/24・11/18・3/22)。



ポータルサイトTOP画面

理解度の向上に向けた広報の取組

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

- 地域包括ケアシステムに関するリーフレットの全戸回覧や、市政だよりへの漫画掲載など、様々な広報媒体を活用した取組を実施したほか、職員向けeラーニングや研修を実施し、市職員一人ひとりの理解を深めることで、市民への普及啓発に繋げる取組を実施しました。

【地域包括ケアシステムリーフレットの全戸回覧】

町内会・自治会の協力のもと、全戸回覧を実施

回覧対象：町内会・自治会に加入している全世帯
回覧部数：約45,000部



【市政だよりへの漫画掲載】

平成28年10月1日号の特集記事として、紙面の1面～3面を割いて、地域包括ケアシステムを分かりやすく伝えるための漫画を掲載

発行部数：約57万部
対象世帯：市内全世帯



【国保だよりへの記事の掲載】

平成29年1月の国保だよりにて地域包括ケアシステムに関する広報を掲載

送付対象：国保加入者全世帯（約198,000世帯）



【職員向けeラーニングの実施】

市職員の理解度の向上を図り、市民への普及啓発に繋げるため、職員向けeラーニングを実施

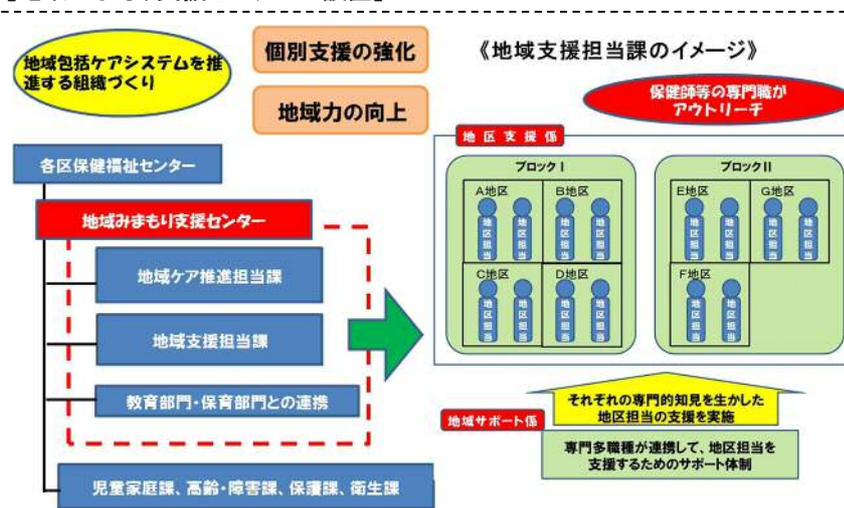
対象者：全職員
受講率：約70%（10,416人中、7,280人が受講）
※受講率はeラーニングシステムを利用できる職員の受講率
※システムを利用できない職員については、庁内HPにパワーポイントファイルを投稿し、紙に印刷したものを配布するなどで対応

各区に地域みまもり支援センターを設置

概要 背景 **取組** 成果 まとめ

- 地域と顔の見える関係をつくり、連携・協力し、生活課題を抱える住民に対する適切なケアの提供や、地域課題の把握、地域のネットワークの構築など、「個別支援の強化」と「地域力の向上」を図るため、平成28年4月に各区役所地域みまもり支援センターを設置しました。
- 地域みまもり支援センターでは市民の理解度の向上に向け、地域の関係機関・団体等への出前説明や講演会等により、約44,000人に対して広報活動を展開。

【地域みまもり支援センターの設置】



【広報活動】

【説明延べ人数】

約44,000人

【広報対象】

町内会・自治会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、学校、保育園、医療機関、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、こども関連機関、地域団体、事業者関連 など

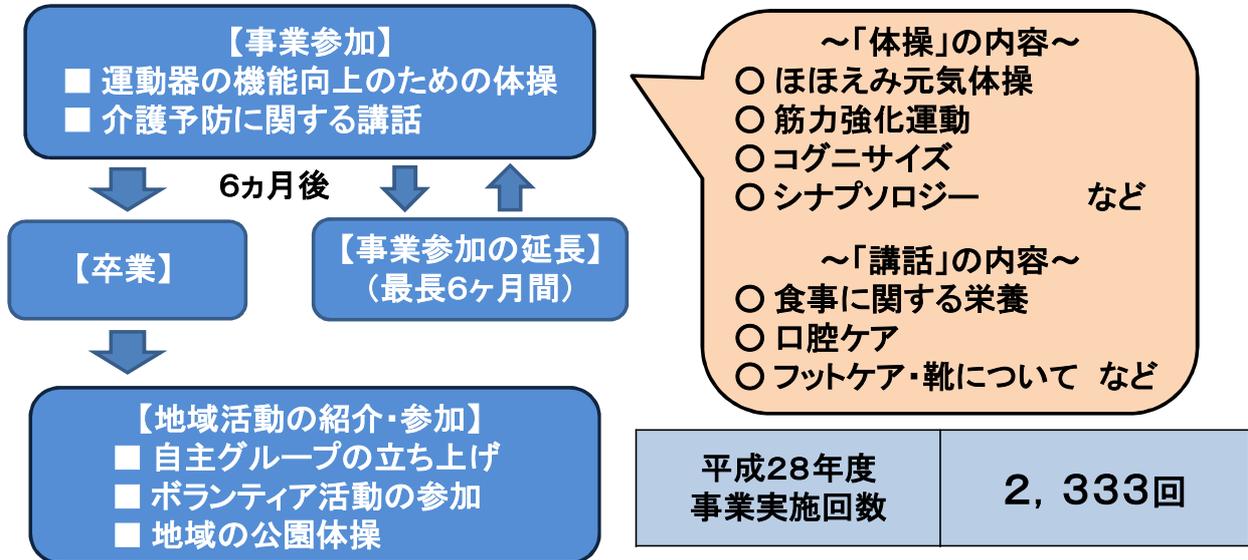


多摩区地域包括ケアシステムシンポジウム

いこい元気広場事業

概要 背景 取組 成果 まとめ

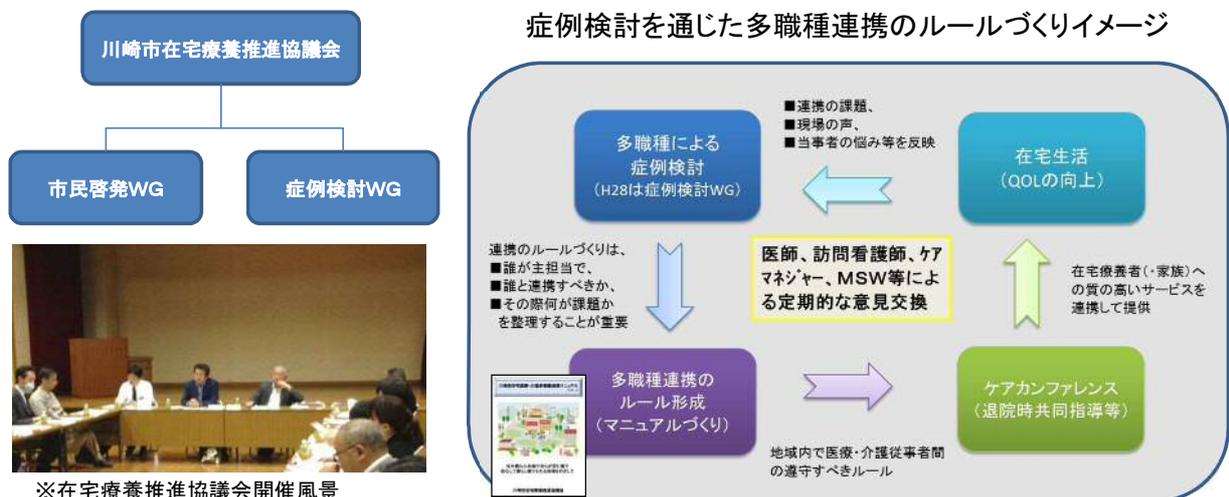
- 市内48箇所の「老人いこいの家」を利用し、専門の指導員による体操・介護予防に関する講話を行っています。広く介護予防を普及啓発し、高齢者が要介護・要支援状態となることを防ぐことを目的としています。また、事業参加者が、仲間づくりや地域の活動にも参加できるようになることを目指し、そのきっかけとなる通いの場として、事業を実施しています。



在宅療養における多職種間の円滑な連携に向けたルールづくり

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、介護支援専門員連絡会、医療ソーシャルワーカー協会、理学療法士会、地域包括支援センターなど、関連団体の代表者で構成する川崎市在宅療養推進協議会を定期的に開催し、多職種連携の強化、在宅療養患者に対する一体的な支援体制の構築に向けた協議を実施しています。平成28年度は、この協議会のもとに設置した症例検討ワーキンググループでの症例検討を通じて、多職種間の円滑な連携によるより良いケアの提供に向けて「在宅医療・介護多職種連携マニュアル」を作成しました。



在宅医療・介護多職種連携マニュアル

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 「在宅医療・介護多職種連携マニュアル」には、在宅で療養されている方のケアの各段階で節目となるタイミングごとに、どの職種とどのような情報を共有することが必要かを整理した「在宅医療・介護連携のための情報共有チェックシート」を掲載しています。
- 多職種でチームとなってケアを行う際に、円滑な情報共有を図り、連携をスムーズにすることで、在宅で療養されている方のQOLの向上に繋がります。

【在宅医療・介護多職種連携マニュアルの構成】

- 在宅療養の推進に向けた課題と取組
 - 川崎市における在宅医療等の現状
 - 在宅療養推進に向けた課題
 - 課題解決に向けた具体的な取組について
- 在宅療養に係る各団体等の果たす役割
- 在宅医療・介護多職種連携の会議体制
- 在宅療養調整医師・在宅医療サポートセンターの機能
 - 在宅療養調整医師
 - 在宅医療サポートセンター
- 在宅療養への移行支援の流れ
 - 在宅生活の課題と医療提供の流れ
 - 症例検討を通じた多職種連携のルールづくり
 - 在宅医療・介護連携のための情報共有チェックシートの構成
※在宅医療・介護連携のための情報共有チェックシート
- 参考事例
 - がん末期で自宅での一人暮らしを続けた事例
 - 認知症で寝たきりの老々介護の事例
 - 難病で自宅での一人暮らしを続ける事例
- 在宅療養に係る人材養成
 - 在宅チーム医療を担う地域リーダー研修
 - 介護職向け医療・介護連携研修
- 市民啓発

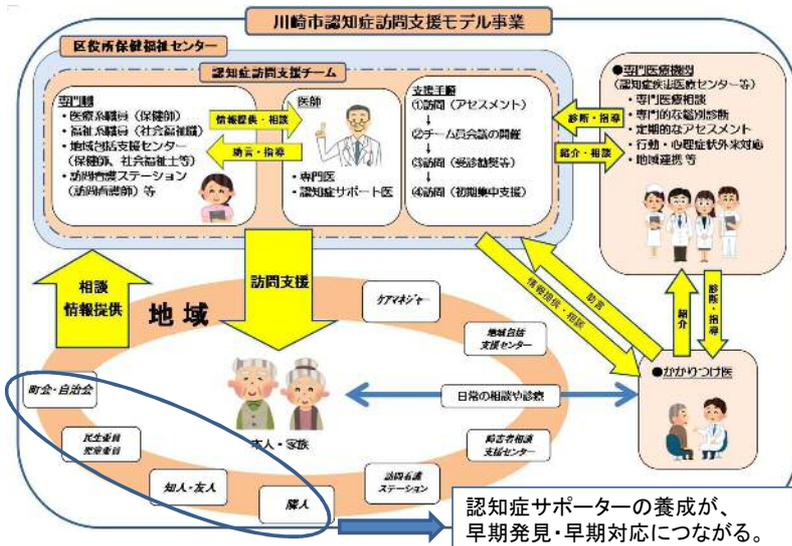
資料編
連携に向けたQ&A
川崎市在宅療養連携ノート
専門職向け認知症ケアパス
医療と介護との連携連絡票
居宅介護サービス(新規・変更)依頼書 ※川崎市介護支援専門員連絡協議会様式

【在宅医療・介護連携のための情報共有チェックシート】

認知症初期集中支援モデル事業の実施

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 専門医1名と専門職2名がチームとなり、家族等の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人、その家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立生活のサポートを行うモデル事業を実施しています。平成28年度は幸区で実施し、平成29年度は高津区、麻生区を加えた3区、平成30年度からは全区を対象に実施する予定です。



【認知症初期集中支援チームのメンバー】

- 【専門医】
- 日本老年精神医学会もしくは日本認知症学会の定める専門医
 - 認知症サポート医であって、認知症疾患の診断・治療に5年以上従事した経験を有する者等
- 【専門職】
- 保健師、看護師、作業療法士、歯科衛生士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士等の他、認知症の医療や介護の専門的知識・経験を有する者
 - 認知症ケア、在宅ケアの実務・相談経験を3年以上有する者等

民生委員児童委員の充足率向上に向けた取組

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 平成26年に実施した民生委員児童委員及び町内会・自治会へのアンケートにより抽出した課題を整理し、制度全体の見直しを図るため、**民生委員児童委員あり方検討委員会**を設置し、**民生委員活動を支援するための環境整備に向け2年間にわたる検討を実施しました。**
- あり方検討委員会の提言を受け、平成28年度は負担感の軽減を図るための**マニュアル作成や活動への理解促進を図る広報、年齢要件の緩和**など、充足率向上に向け、様々な取組を実施しました。

【民生委員児童委員あり方検討委員会】^(H26年度) ^(H27年度)

【目的】

平成28年12月の一斉改選に向け、民生委員児童委員活動を支援するための環境整備に向けた課題を整理し、制度全体の見直しに関する提言をする。

【構成】

学識者、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、行政、関係団体

【検討項目】

- ① 担当世帯数の適正化
- ② 民生委員児童委員活動への協力体制
- ③ **活動負担の軽減**
- ④ 効果的な研修の実施
- ⑤ **活動支援の充実**
- ⑥ 推薦準備会のあり方
- ⑦ **推薦対象者拡大の取組**

※民生委員児童委員へのアンケート(H26.3)及び町内会・自治会へのアンケート(H26.4)をもとに課題を抽出

【民生委員児童委員の充足率向上に向けた主な取組】^(H28年度)

【民生委員児童委員への依頼事項の整理・マニュアル化】

- 行政、社会福祉協議会からの依頼事項や民生委員児童委員協議会の企画事業などを所管別、分野別に整理するとともに、事業目的を明確化するなど、負担感の軽減を図るための分かりやすいマニュアルを作成。



【民生委員児童委員活動に対する理解促進のための広報】

- 広報リーフレットを作成し、全町内会・自治会への回覧を実施。
- 一斉改選に向けたコマーシャル動画(15秒)によるPR
 - ・アゼリアビジョン(6/24~7/21)
 - ・ノクティビジョン(7/1~7/31)
 など

【年齢要件の一部緩和】

- 新任72歳未満
 - 原則72歳未満。ただし地域の実情により75歳未満。
- 再任75歳未満
 - 原則75歳未満。ただし、地区民児協の要請がある場合77歳未満。

成果指標①及び③の達成状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

① 高齢者のうち、介護を必要とする人(要介護・要支援認定者)の割合

- 高齢者のうち、介護を必要とする人の割合が**第6期介護保険事業計画の推計値を下回ることを成果指標の目標**としており、**平成28年度の実績については、前年度から0.46%下がり、目標を達成しました。**市内49か所のいこいの家で実施している「いこい元気広場」や、各区における公園体操等の介護予防の取組などを推進したことによる一定の成果があったものと考えられます。

	H28
目標	17.95%
実績	17.49%
現状値	17.07%(H26)

③ 在宅チーム医療を担う人材育成研修の受講者累計数

- チームとして在宅療養患者・家族を支えていくための人材を育成するため、在宅医療に関わる医療・介護従事者に対する多職種研修を開催し、**平成27年度は147人、平成28年度は154人の参加がありました。**この結果、研修の受講者累計数は**現状値から301人増加し、目標を達成しました。**

【これまでの実績】		参加者数
第1回(平成26年2月9日)	医師30名を含む	150名
第2回(平成27年3月8日)	医師30名を含む	158名
第3回(平成28年2月21日)	医師26名を含む	147名
第4回(平成29年2月5日)	医師27名を含む	154名

	H28
目標	602人
実績	609人
現状値	308人(H26)

成果指標④及び⑥の達成状況

④ 介護予防の取組として、地域の活動に参加する人の割合

- 高齢者実態調査(無作為抽出H25:3,600人,H28:16,605人)の設問項目「介護予防の取組で実践していること」において「地域の活動に参加」と答えた人の割合を成果指標としており、平成28年度の実績については、現状値から0.9%増加し、目標を達成しました。

	H28
目標	10.6%
実績	11.5%
現状値	10.6%(H25)

⑥ 認知症サポーター養成者数(累計)

- 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して、認知症の方や家族を温かく見守り応援する「認知症サポーター」を養成するための講座を開催

しています。平成28年度は講座を219回実施し、**9,090人が受講したことに**より、**目標を達成しました。**



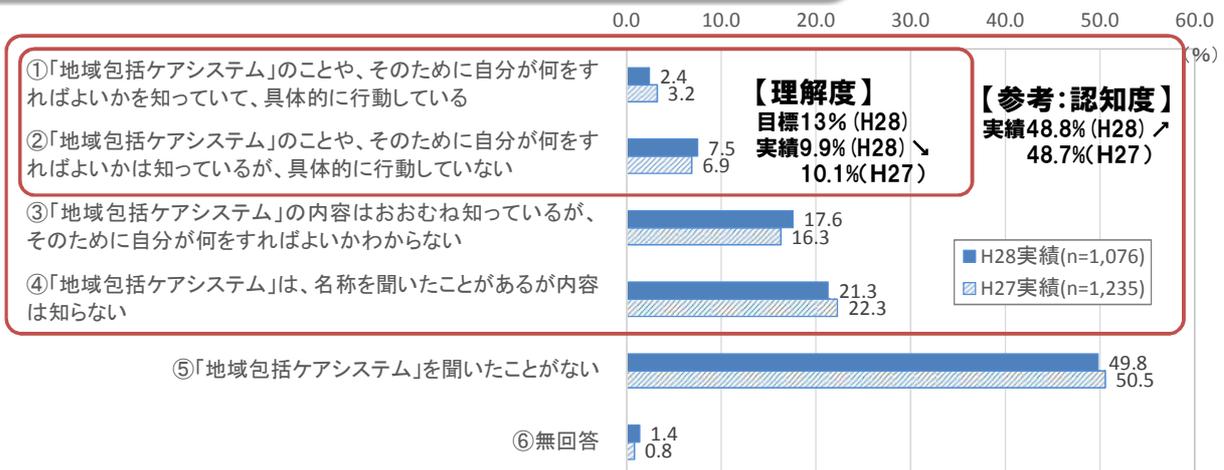
	H28
目標	31,400人
実績	41,980人
現状値	24,034人(H26)

成果指標②の達成状況

② 地域包括ケアシステムの考え方の理解度

- 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「地域包括ケアシステムの内容を知っており、具体的にどのように行動したらよいか分かっている」と答えた人の割合を成果指標としており、平成28年度の実績については、**目標を達成できませんでした。**
- 一方、これまでの取組により、認知度については、約50%となっています。

	H28
目標	13%
実績	9.9%
現状値	10.1%(H27)

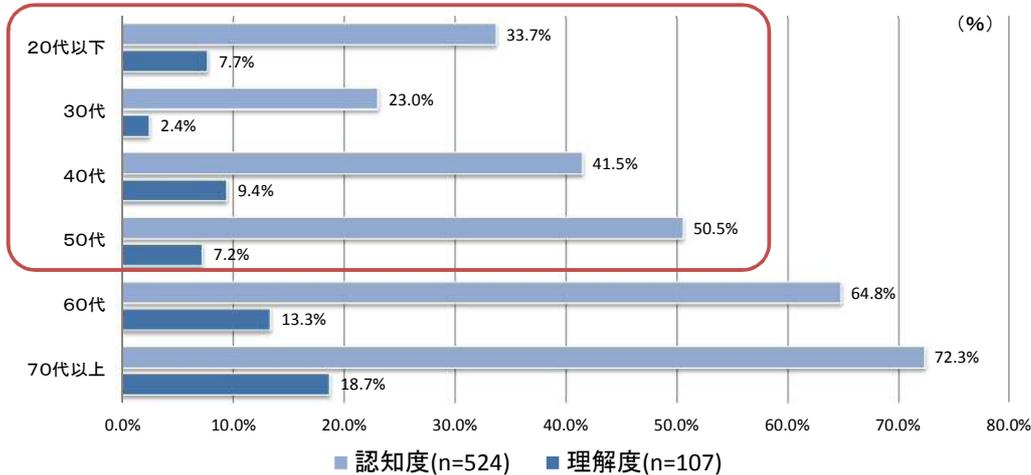


成果指標②の成果分析(その1)

概要 背景 取組 成果 まとめ

② 地域包括ケアシステムの考え方の理解度

- 地域包括ケアシステムを理解している回答者の年代を分析してみると、**20代以下～50代の年代の割合が少なくなっています**。また、認知している回答者の割合を比較した場合も、60代以上の年代と比べ、**50代以下の割合が低いことから、広報等の手法も含めて、若年層や現役世代への対応について検討していく必要があります**。



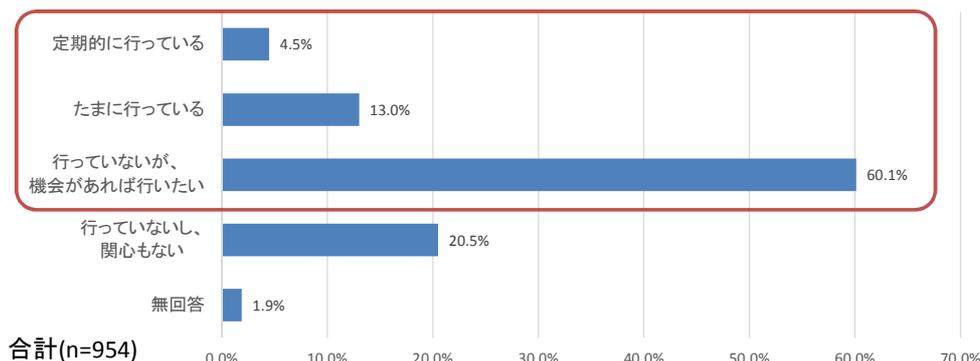
成果指標②の成果分析(その2)

概要 背景 取組 成果 まとめ

② 地域包括ケアシステムの考え方の理解度

- 「地域包括ケアシステムのために自分が何をすればよいかわからない」と回答した方に、「近隣住民との交流や地域活動などを行っているか」聞いたところ、「**行っている**」が**17.5%**、「**機会があれば行いたい**」が**60.1%**の割合となっています。
- 近隣住民との交流や地域活動などの取組が、地域包括ケアシステムのためにできる具体的な取組であることを認識してもらうことで、理解度の大幅な向上につながる可能性があると考えられます。広報活動等において、**地域包括ケアシステムを身近に感じてもらうための取組が必要です**。

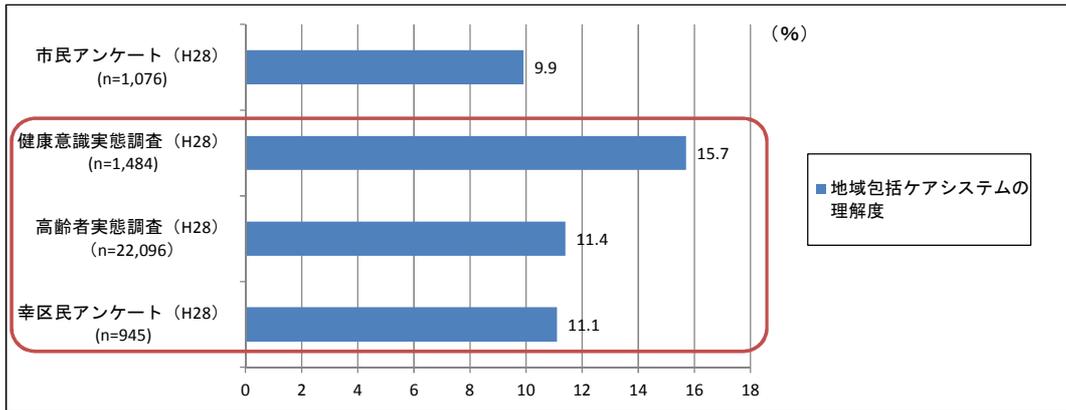
設問 近隣住民との交流や様々な地域活動に関わることにより、支え合い・助け合う地域づくりに関わることを行っていますか。



その他の事業発現効果

② 地域包括ケアシステムの考え方の理解度

- 「地域包括ケアシステムの考え方の理解度」については目標値を下回っていますが、**別のアンケート調査の結果では成果指標の実績値を上回る結果が出ています**。また、地域包括ケアシステムの認知度については、増となっていることから、地域みまもり支援センターによる市民説明(約44,000人)やポータルサイトによる情報発信など普及啓発の取組について、一定の効果はあったものと考えられます。



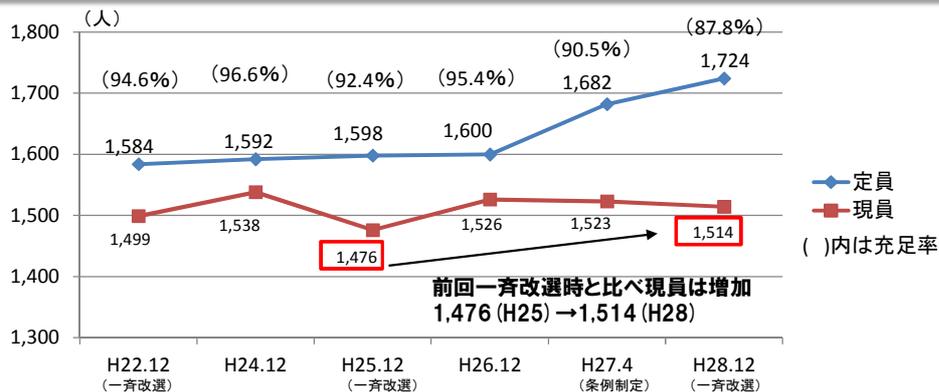
成果指標⑤の達成状況・成果分析

⑤ 民生委員児童委員の充足率

- 平成28年度の一斉改選では、民生委員児童委員の**充足率は87.8%**と**目標値には届かず**、前年度の実績から2.7%下がりました。

	H28
目標	93.4%
実績	87.8%
現状値	90.5%(H27)

- 本市の世帯数増に伴い、規則改正により**定数を42人拡大したものの、定員に見合う民生委員の確保ができず充足率が減少**しました。委嘱者数自体は、**前回の一斉改選よりも38人増えている**ことから、今後も引き続き、欠員地区の分析やそれに基づく対策を実施するなど、改善に努めていく必要があります。



施策の進捗状況

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / **まとめ**

施策の進捗状況 B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)

理由

- ① 施策に掲げた成果指標については、一部を除き、目標値を達成しているため、施策の目標達成に向けて一定の進捗がありました。
- ② 地域包括ケアシステムの理解度については、目標達成に至りませんでした。別のアンケート調査の結果では、目標値に達しているものもあることから、取組について一定の成果があったものと考えます。
- ③ 民生委員児童委員の充足率については、本市の世帯数増に伴う民生委員児童委員の定数拡大など、社会状況が変化していることから目標達成には至りませんでした。欠員地区の原因分析及びそれに基づく対策を実施するなど、目標達成に向けて事業を推進します。

【施策の進捗状況区分】 A 順調に推移(目標達成している)、B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)
C 進捗は遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)、D 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)



Colors, Future!
西宮市

施策1-4-1 総合的なケアの推進



29

施策の今後の方向性

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / **まとめ**

今後の方向性 II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

理由

- ① 施策に掲げた成果指標については、一部を除き、目標値を達成しているため、施策を構成している事務事業の取組が順調に推移したことによるものと考えます。
- ② 一方、地域包括ケアシステム推進事業については、多様な主体が地域の中で支え合う仕組みづくりを推進するための基礎として、市民の地域包括ケアシステムの理解度の向上が重要となることから、多様な手法を用いた効果的な広報を推進していきます。
- ③ 民生委員児童委員活動育成等事業については、社会状況の変化を踏まえ、欠員地区の原因分析等を実施し、充足率の向上に向けた対策の取組に繋げていきます。

【今後の方向性区分】 I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
III あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、IV 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!
西宮市

施策1-4-1 総合的なケアの推進



30



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市